



平成 27 年 3 月 26 日
海 上 保 安 庁

西之島の火山活動の状況（3月25日観測）

3月25日、羽田航空基地所属航空機（MA722 みずなぎ）により、西之島の火山活動の観測を実施した。

1. 噴火の状況

火砕丘にある火口から、1分間に5～6回の頻度で溶岩片を伴う噴火を繰り返していた。溶岩流は火砕丘から北方向に流出していた。

西之島の火山活動は引き続き活発で、今後も噴火による影響が及ぶおそれがあることから、西之島及び周辺海域（島の中心から半径4kmの範囲）においては、付近航行船舶へ引き続き航行警報により警戒を呼びかけている。

2. 新たに形成された陸地の状況

前回(2月23日)の当庁航空機による観測と比較して、ほとんど変化はなかった（図7参照）。

同乗した東京工業大学火山流体研究センターの野上健治教授からは、「東海岸への溶岩の流出はほぼ停止したように見えるが、火砕丘の北側に新たな溶岩流出口が開き、溶岩の流出が認められた。

流出した溶岩の一部は西側の海岸へ到達しているが、大部分は北側へ流れ、既存の溶岩を覆うように流れている。これまでの溶岩流出に比べて、現時点でのその量は多くはなく、流出速度も遅くなっている様に見えるが、地形の効果の可能性もある。

噴火回数は1分間に5～6回程度で噴火の規模も前回2月の観測から変化していないが、今回は噴火に伴う火山灰の放出量が増加している様に見えるため、これまでより若干爆発点が深くなっている可能性がある。今後爆発点が更に深くなれば、爆発的噴火が発生する可能性が考えられる。」

とのコメントが得られた。

※3月25日時点での形状（暫定値）

- ・東西：約 2,000 m（2月23日時点 東西：約 1,950m）
- ・南北：約 1,800 m（2月23日時点 南北：約 1,800m）
- ・面積：約 2.45 平方 km、東京ドームの約 52 倍

（2月23日時点 約 2.45 平方 km、東京ドームの約 52 倍）

（参考）西之島全体の面積：約 2.46 平方 km（旧西之島を含む）

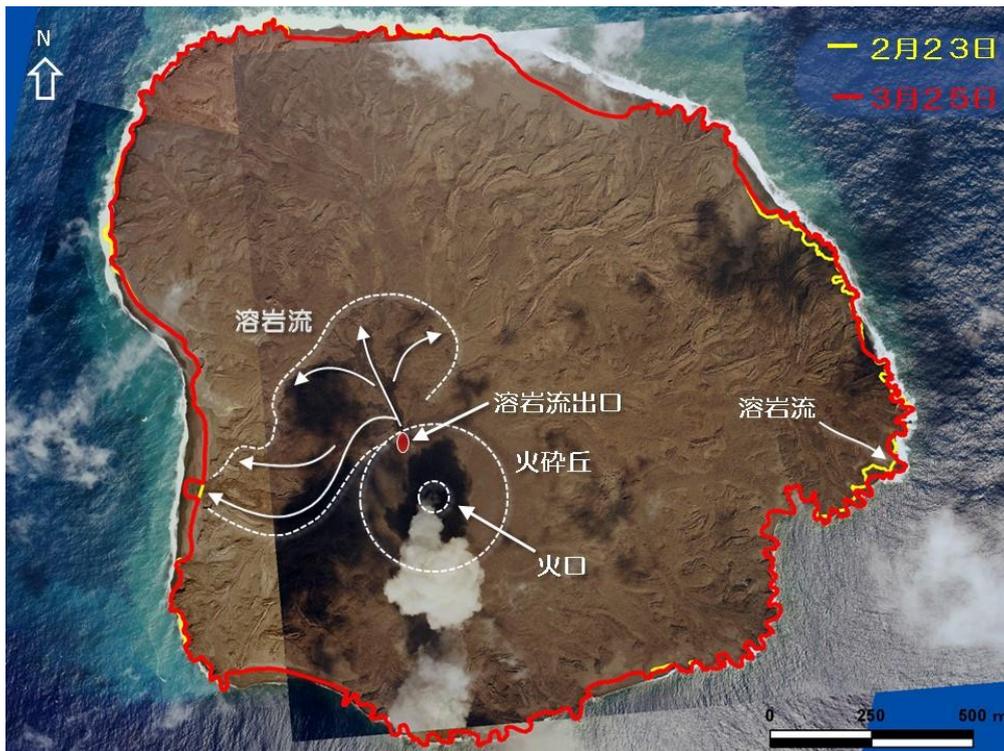


図1 火砕丘及び火口の位置 (3月25日撮影)



図2 北西方向から見た西之島 (3月25日撮影)

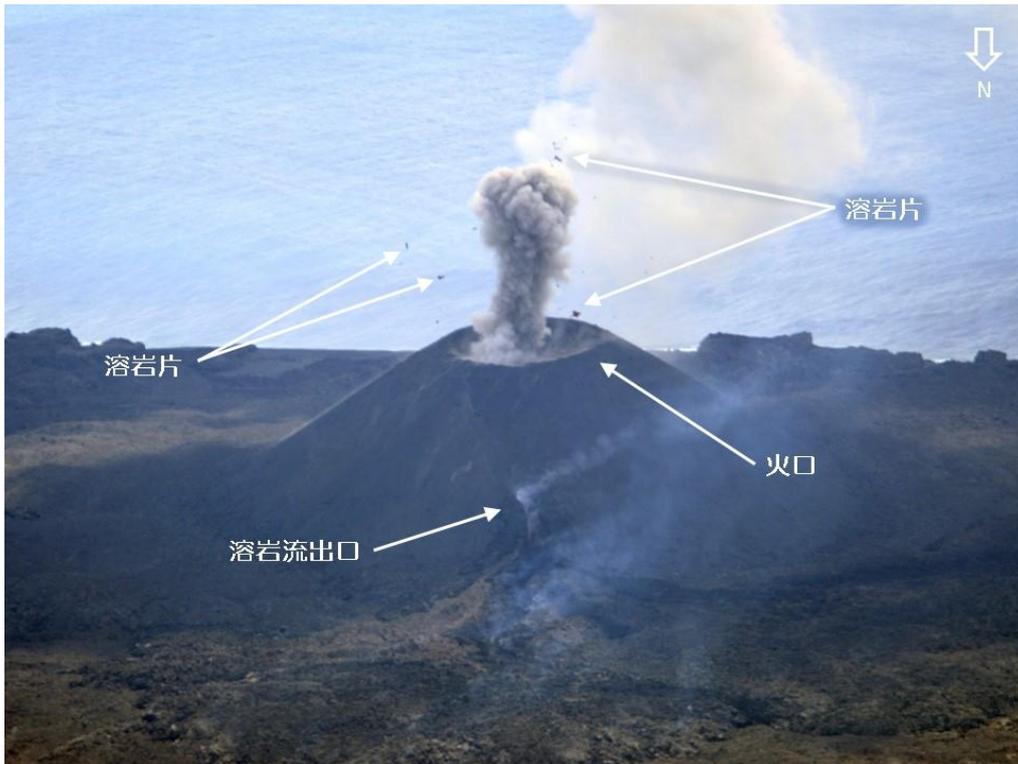


図3 火砕丘の火口から噴煙を噴出 (3月25日撮影)



図4 火砕丘からの溶岩流と旧西之島 (3月25日撮影)

旧西之島はまだ一部が溶岩に埋没せず残っている。
溶岩流が溶岩を覆うように流下している。

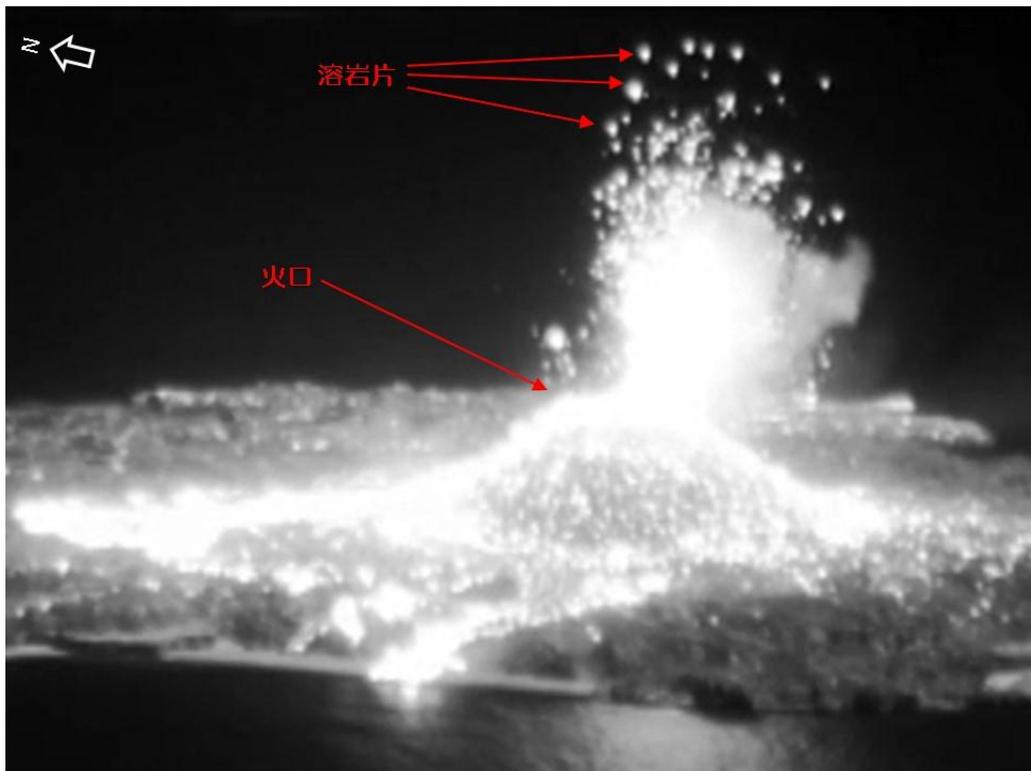


図5 火砕丘の火口から溶岩片を噴出（3月25日撮影）
 （熱赤外線画像：白色ほど高温であることを示す。）

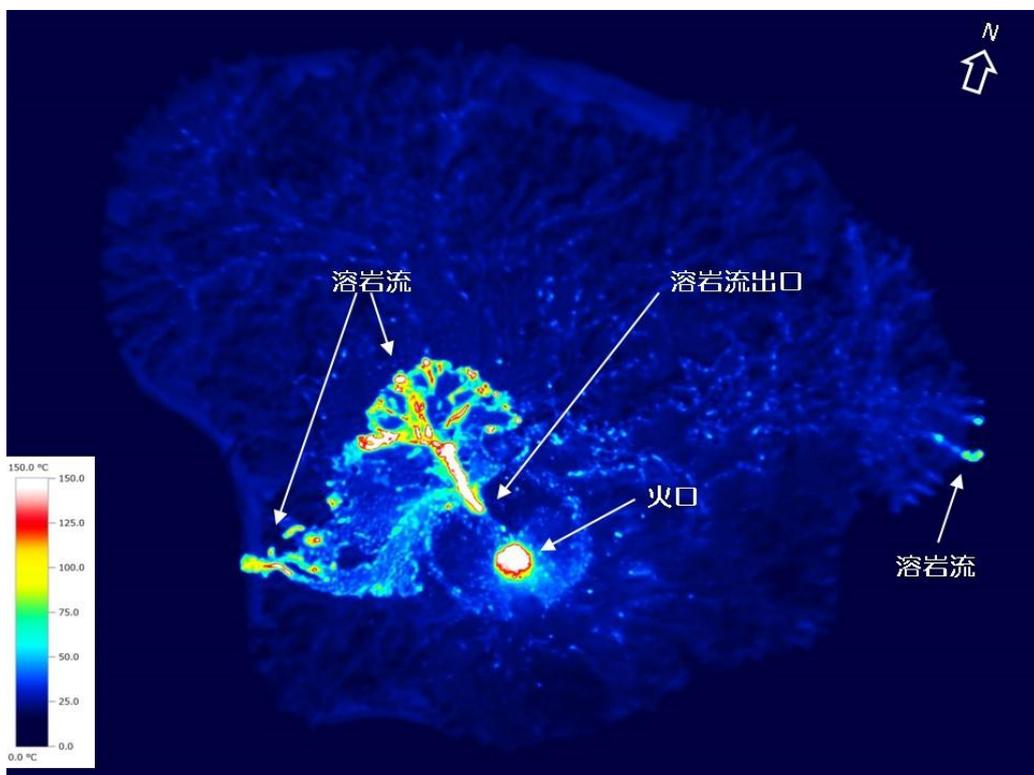


図6 熱画像の解析結果（3月25日撮影）
 溶岩流が火砕丘から北西方向に流れているのが確認できる。

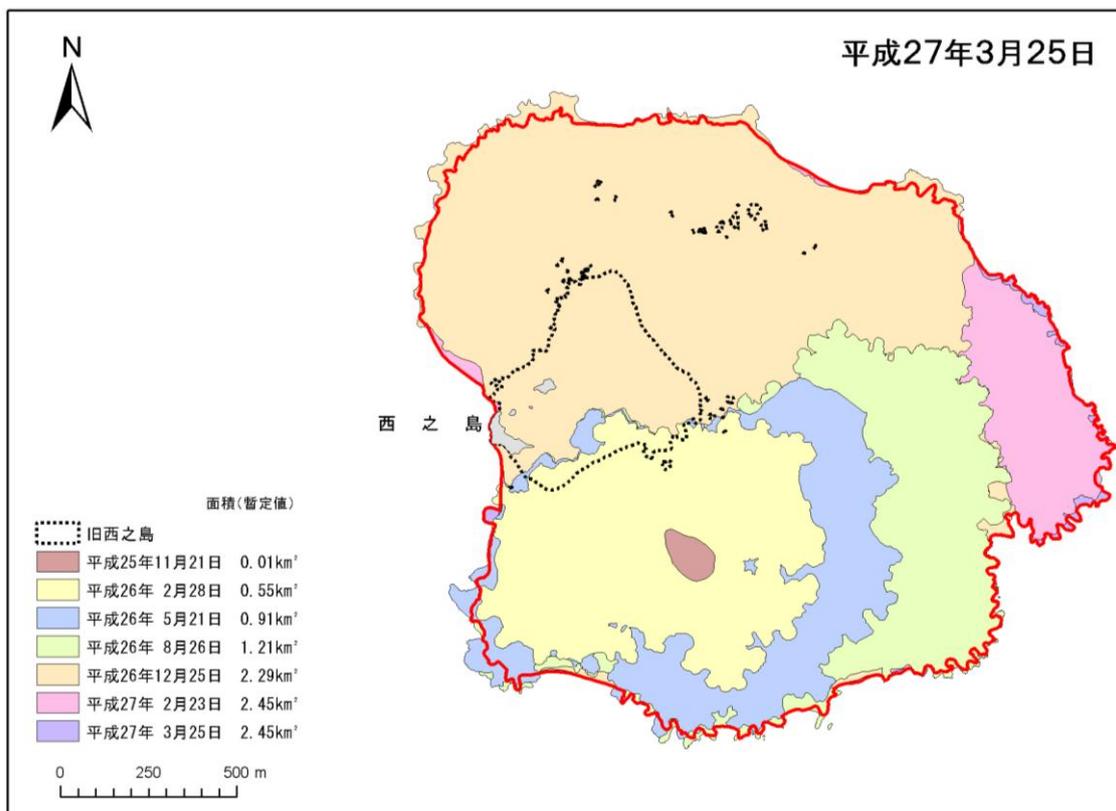


図7 新たに形成された陸地部分の形状変化の様子
赤線は3月25日現在の陸地の外縁